ライフラインを支える
責任と誇りを胸に

有限会社アサヒホームサービス　矢部弘司さん

水廻り全般の設備工事、リフォーム、修理等を行っている有限会社アサヒホームサービスは、今年で創業16年。近年、住宅リフォームにも力を入れたり、人材育成に奮闘したりと、事業内容にも会社組織としての姿にも変化と進化が見られる。同社代表取締役社長の矢部弘司さんに、職人および経営者としての歩みと想いを尋ねた。

■ 共同経営者→個人事業主→経営者

私はもともと、水廻りの設備工事を行う職人で、特に独立起業を目指していたわけではありませんでした。ところが、22～23歳頃、当時先輩の会社で職人として働いていたところ、「共同経営でやってみよう」という話になったんです。でも1年程で関係は解消。その後個人事業主になり、最終的に起業することになりました。

■ 信頼に応える、現場を投げ出さない

共同経営をやめることになり、私の担当工事でも先輩の知り合いから依頼された現場は手放すのが当然という考えでした。先輩との関係も決裂していたので、自分がやる理由も義理もないと思っていたのです。でも、ある現場監督さんに、「お前がいるから発注したんだぞ」「どんな事情があれ、会社をやめるからと言って現場を投げ出すなんて、無責任に逃げ出すのと一緒」と、叱られまして（苦笑）。そこで考えを改め、未払いだった報酬の代わりに会社から道具一式を譲ってもらい、引き続き現場に入って工事完了まで担当させてもらいました。その後、同じ現場監督さんに現場を紹介していただくことになり、個人事業主という形で働くことになったのです。

水は暮らしに直結するライフライン。それを支える存在として、新規設備工事はもちろん急な修理依頼にも迅速丁寧に応じ、顧客との信頼関係を築くことを大切にしている。最近は「社員には職人であり営業マンでもある、という自覚を促すよう意識して声を掛けています」。

■ 基本を疎かにしては、会社は続かない

これまでに一番苦しかったことを挙げるとするならば、ちょうど個人から法人、つまり下請けから元請けへの転換期に仕事の単価（手間代）が下がって資金面で苦労したことでしょうか。それでも何とかやって来られたのは、前出の現場監督さんのような方々に恵まれたこと、そして当社の基本である水回りの工事を重視する姿勢を貫けたからだと思っています。昔は職人のプライドばかりが先に立ち、取引先をなくしたこともありました。また、新しい流ればかりを追いかけて、当社の事業の核や強みを見失いかけたこともあります。そうした危機には必ず、諸先輩方が厳しく叱ってくださり、そのおかげでこうして会社を続けていられるのだと感謝しています。

■ 人と向き合って来たからこそ今がある

24歳で起業してから、先輩や友人が間違いを正したり叱咤激励してくれたり、何でも1人で抱え込む傾向にある私を外へ連れ出してくれたりと、多くの人に助けられ育ててもらいました。だからこそどんなに厳しいことを指摘されるとしても、自分のことを気に掛けてくれる人とは逃げ出さず、正面から向き合うべきだと思います。

矢部弘司（やべ・こうじ）
有限会社アサヒホームサービス 代表取締役社長

長野市飯綱高原在住。自然に囲まれた自宅に帰れば、自動的にONからOFFに切り替えられるのだとか。趣味は映画鑑賞とゴルフ、現在44歳。